

令和7年度 みのべ幼稚園 自己評価 学校関係者評価 報告書

1、園の教育目標

文部科学省の教育要領と知・情・体 三位一体の総合教育を基本とし
特に豊かな宗教情操の元に しつけ（ご両親を敬い 思いやりのある子）
音 楽（明るく 楽しく 協調性のある子）
体 育（元気いっぱい遊べる子）
に重点を置き やる気と根気のある子に育てる

1、具体的な目標や計画

教育課程の内容を再確認したり、幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿を再認識しながら、
教職員の共通理解を深めて、教育の質をたかめていく

2、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	
保育の質の向上	B	職員タブレットを活用し、指導や保育を録画できるようになったことで情報共有が進み、学年ごとの課題や子どもの姿を共通理解のもとで捉えることができるようになった。その結果、子ども一人ひとりの育ちに即した関わりが充実し、保育の質の向上につながっている。
異学年交流、地域交流	A	年下児においては、進級への期待をもちながら意欲的に活動に参加する姿が見られるようになった。年上児は、相手の様子を考えながら関わろうとする姿が育ち、異学年交流が子ども同士の成長を促す機会となっている。また、参観・中高生の社会体験・教育実習生との関りを通じて、社会性の育みにつながった。
生活態度	A	低年齢児では、話を聞こうとする姿勢が育ち、安心して生活する様子が見られている。年中・年長児では、身だしなみや場に応じた行動を意識し、落ち着いて生活する姿が定着してきている。全体として、基本的な生活態度の向上が図られている。
自主性	B	低・中学年では、新しいことにも前向きに取り組もうとする姿が増え、自分の思いをもって行動する姿が見られるようになった。造形活動では、創造力豊かに思いを形に表現する機会を多く取ることで、学年進行に応じた主体的な姿が全体に広がってきている。

3、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
A	教職員間における子どもの育ちに対する共通理解が進み、日々の保育実践に反映されるようになってきている。各学年において、子どもの主体性や協同性、思考力の芽生えなどが見られ、教育課程に沿った育ちが確認できている。一方で、今後は「主体性・人間力」を育むために、より具体的な指導場面や記録と結びつけ、継続的な振り返りを行うことで、さらなる教育の質の向上を図っていく必要がある。

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
安全管理体制のさらなる強化	小門のセキュリティ強化、園内出入り口へのロック扉設置、吊り下げ名札の運用強化など、ハード・ソフト両面からの対策を実施してきた。 今後は、これらの設備・ルールが確実に機能し続けるよう、日常の確認や職員間での共通認識の継続を図り、安全管理体制のさらなる定着を目指していく。
主体性をより一層育むための内容の充実と時間の確保	子ども一人ひとりの主体性や創造性をより一層育てていくために、十分に試行錯誤できる時間と環境の確保が必要である。活動時間や進め方を見直し、子ども自身が考え、選び、挑戦できる造形活動の充実を図っていく。素材や表現方法の幅を広げることで、子どもたちの可能性と挑戦の機会をさらに広げ、主体的に取り組む力の育成につなげていく。

6、学校関係者評価

<p>みのべ幼稚園の自己評価を実施することにおいて、評価結果について適切であったと思う。昨年同様、ホームページ等で日常の保育の様子が確認できるので、今後も継続して行ってほしい。</p> <p>セキュリティにおいて不安なこともあったが、その後の対応が迅速かつ的確であったので、安心することができた。</p> <p>来年度も丁寧な保育を進めてもらえるように期待している。</p>
